

乗車証見直し」の「旅行を許すな

当局は十月二二日、「乗車証の見直し」について「最終案である」として、不当にも一方的に組合側に提案してきた。今春以降、「ヤミ・カラ」「緊急十一項目」等による既得権剥奪攻撃はし烈をきわめており、その最大の攻撃として、十一月三〇日をもって当局が一方的に「改訂」II大改悪せんとしている「現協協約改訂」攻撃とともに、今回の「乗車証見直し」攻撃がある。動労千葉は、OBも参加して行われた団交の席上、この反動的な提案を怒りをこめて弾劾するとともに、その白紙撤回を要求して徹底的に当局を追及した。

不当極まりない「当局提案」の内容

一、職務乗車証

「全線」を廃止し、次の四区分とする。

- (1) 地区線：(現行の首都圏)：機関士、電運士、気運士、検査係、等。
- (2) 隣接局線：(千葉局プラス東京南局)：車掌、列車掛、機関助手、等。
- (3) 局線：(千葉局プラス東京都区区内)：前記以外の職員(勤続一年未満の者を除く)
- (4) 通勤：(通勤区間)：勤続一年未満の職員、準職員。

二、精勤乗車証の廃止、退職者乗車証の廃止

- (1) 「精勤乗車証」を廃止し、「割引証」を年間12枚(5割引)発行する。ただし、
 - ① 欠勤、懲戒処分を受けた者については次の措置をとる。
 - * 停職、休職：交付停止
 - * 戒告、減給：一回につき6枚の減
 - * 訓告：3枚の減
 - * 欠勤：1枚の減
 - ② 表彰受彰者には付加をする。
 - (総裁表彰：+3枚、局長表彰：+2枚)
 - ③ 繁忙期(ゴールデンウィーク・お盆・年末年始)の使用制限を行う。
- (2) 職員の新婚旅行に対しては十日間を限度とし、必要枚数の「割引証」を交付(5割引)
- (3) 「退職者乗車証」を廃止し、勤続二年以上の者について「割引証」を年間6枚(5割引)を発行する。

三、家族割引証

発行枚数：年間20枚
対象範囲：夫婦(但し、扶養の子を含む。また、勤続12年以上の職員については親を含む分として10枚プラス)
使用制限：繁忙期、修学旅行、団体旅行には使用制限を行う。

四、その他：乗車証は一般の定期と同じ様式にし、写真証は廃止する。私鉄との「相互乗車」を抑制するため協力要請する。

五、移行時期

- (1) 職務乗車証、精勤・部内乗車証：57年12月1日
- (2) 家族割引証：既発行のものは58年7月31日まで有効。新割引券は58年7月1日から交付。

OBも出席して、怒りの団交で追及

パス廃止攻撃の反動性の第一は、いうまでもなく、これが労働条件の最も基本的な部分の全面剥奪であり、大巾賃下げを直接に意味することである。

団交に参加したOBからも「赤字は国家および当局の永年の施策の結果として、つくられるべくしてつくられてきたものであり、今さら赤字を口実にパスを廃止するという言い分は問題のすりかえであり欺瞞である。低賃金と劣悪な労働条件下で働き続けてきたわれわれ国鉄労働者の犠牲の上で国鉄と日本資本主義はふとってきたのじゃないか。パスは労働条件そのものだ。一方的に廃止することは全く納得がいかない。撤回せよ」と、腹の底からの怒りが当局に叩きつけられた。

賞・罰をからめ、マル生支配を狙う

更に加えて、その反動性の第二は、欠勤や他の労働処分にこれをからませて、「割引証の交付停止や減数措置」をとり、一方で「表彰者には枚数を増やす」とする徹底した賞罰、差別分断政策を導入しようとしている点である。このことは懲戒処分との「二重処分」を意味するのみならず、本来全員が平等に持っていた当然の既得権IIパスを不当にとり上げておいて「多くはしければ、当局にもっと忠誠をつくせ」と労働者の心を切りきざみ利益誘導して、労働組合の弱体化を狙っているものとして絶対に容認できないものである。

国鉄労働運動解体攻撃を許すな!

第三に、このパス廃止攻撃に端的に示された国鉄当局の全く「問答無用」「一方的通告即、実施」というわれわれ労働者と労働組合を完全に無視抹殺する対応の超反動性である。

第二臨調・政府自民党・さらには反動マスコミによる攻撃を、われわれのささやかな当然の既得権にすぎないこのパスにことさら大うつけの悪感情を集中させ、その上によって強行する当局の姿勢は実に許しがたいものである!! 同時に今かけられてきている「現協改悪」攻撃と並んでこれは現下の「緊急11項目」攻撃の最も鋭い攻撃の本性をあらわすところなくむき出しにしているものである。自民党や国鉄当局のボスと西席・ゴルフの談合を重ねることによって「ブルトレの大裏切り」を突破口に、次つぎと屈服を強要してきた動労「本部」革マルの裏切り路線が、今日このような当局のカサにかかった理不尽な全面攻撃を呼び込み、助長していることについて、我々にはあらためて怒りを倍加させ弾劾しなければならぬ。この攻撃が国鉄労働運動の解体を狙ったものである事ははっきりと見えず、全職場から反響の闘いに決起しよう。